全国小学校道徳教育研究会　第４２回夏季中央研修講座　参加報告
令和４年　参会（７月）または動画配信（８月）開催

○はじめに
　昨年度と同様、本県からは今年度も動画配信形式での参加となった。全国から４つの実践発表のあと分科会協議があり、それぞれに本研究会顧問から指導助言がなされた。その後、３人の講師の先生からご講演をいただいた。以下がその概要である。

１　あいさつ
全国小学校道徳教育研究会　会長　小西 佑一
文部科学省　初等中等教育局教育課程課　学校教育官　能見 俊一郎
東京都　教育庁指導部　主任指導主事　窪田 香
台東区教育委員会　教育長　矢下 香

２　実践発表
（１）自分との関わりで道徳的価値に向き合い、いかに生きるべきかを考え続ける子どもの育成を目指して

鹿児島県鹿児島市立田上小学校　野里 賢志

①概要
　「問題設定・見通し」の場面では、主題に対する興味・関心を高め、問題意識をもつことができるよう「自分シート」を活用し、学習問題の設定の工夫に取り組んできた。そして、「問題解決」の場面では、「心の見える図」や「深める発問」を取り入れ、自分の考えを整理させつつ対話活動を促す工夫をしてきた。さらに「振り返り」の場面では、３つの振り返りの視点を明確にすることで、学んだことを自分事として考えられる工夫をしてきた。これらの工夫により子ども達が学んだことを実生活に生かそうとする意欲が高まってきたが、今後は、自分自身の考えがどう変わったかを見つめる手立てが必要である。

②協議
・「自分シート」の活用のしかたについて
・「心の見える図」の活用のしかたについて
・「深める発問」とはどんなものか

③指導助言：全国小学校道徳教育研究会　顧問　第１７代会長　萩原 武雄 先生
全国小学校道徳教育研究会　顧問　第３２代会長　飯島 英世 先生
・「自分シート」の活用については、本時のねらいと一人ひとりのめあてがずれないように、十分配慮する必要がある。発問についても、ねらいをよく考えて行うべきである。
・振り返りは、生き方観が、概念的に終わってしまわないように注意するべきである。

（２）「考え、議論する道徳」の実現を目指して
～「手続きの道徳性」の育成に着目した指導の工夫を通して～

愛媛県松山市立久枝小学校　三宅 浩司

①概要
　道徳規則や判断の正当性を確保できる手続きを重視して「納得解」を得る「手続きの道徳性」の育成に着目し、「めあて」「批判的発問」「問い返し」の三つに焦点をしぼり指導の工夫を重ねてきた。全児童の授業感想を分類・考察した結果、それらの指導の工夫が「考え・議論する道徳」の実現に一定の効果をもたらした。今後の課題としては、「批判的発問」は、どれくらいの発達段階の児童において有効なのか追求していくことがあげられる。

②協議
・「問い返し」による対話の成果について
・児童の感想を分類する視点について
・「手続きの道徳性」の育成を目指した授業の構想について

③指導助言：全国小学校道徳教育研究会　顧問　第２７代会長　馬場 喜久雄 先生
全国小学校道徳教育研究会　顧問　第３６代会長　針谷 玲子 先生
・道徳は、解を得るための学習なのかということを考えて授業をしなければいけない。
・研究においては、学術会議の難しい言葉を自分の物にすることが大切。授業の質的転換ではなく、向上を目指していくことが大切。
・感想の分析をしたことはすばらしい。ただし分類をする時は見落としがないか熟考する必要がある。

（３）「意欲的に学ぶ子の育成」
～道徳科を要とし、関係付ける力を高める学習を通して～

北海道札幌市立伏見小学校　北山 建大

①概要

意欲的に学ぶ子の具体像を「子どもが自ら『ひと・もの・こと』に関わって問題を見いだし、解決し続け、自分の生き方や社会に目を向ける姿」と設定し、その育成のため道徳教育の充実に力を入れてきた。その具体的な方策として、目指す授業像を「『関係付ける力』を高める学習」と設定し、様々な教育活動と学びをつなげたり、学びを生かしたりするための授業実践を行ってきた。そしてその要となるのが道徳科の授業であると考えてきた。

②協議

・道徳科と他教科を関係付ける時の注意点について
・学びを関係付けるための学習の指導計画について

③指導助言：全国小学校道徳教育研究会　顧問　第２６代会長　福田 冨美雄 先生
全国小学校道徳教育研究会　顧問　第２８代会長　吉本 恒幸 先生

・学びをつなげる道徳のユニット学習のためには、子どもの問いのつながりを大切にし、常に道徳科の学習の特質に合致しているかを意識して行うことが大切である。
・質のいい授業をするためには、学習指導要領の解説書を読み込んでほしい。
・他教科の学習の中で得たものを、道徳科の学習の中で深化することが大切である。

（４）「道徳的価値観を豊かにして自己を見つめ直し、よりよく生きようとする子どもの育成」
～道徳科の「見方・考え方」を働かせながら学ぶ～

山形県山形市立第四小学校　逸見 裕輔

①概要

「道徳科ならではの『見方・考え方』を明らかにし、子どもがその見方・考え方を働かせながら学ぶことができる単元を開発すること。」を大切にしながら実践を積み重ねてきた。ここでは、自作のスティーブ・ジョブズの生涯を題材とした単元の学習の様子を、一人の抽出児の考えが変化していく姿を通して紹介した。この学習では、「自分・状況・失敗を『前向き』に捉えながら、ジョブズと自分を重ねてよりよい生き方を考える」という見方・考え方を設定していたが、子どもが働かせる見方・考え方を教師が明確にもつことが子どもの育ちにつながることが実感できた。

②協議

・自作の資料を作成したり、単元構成をする時の注意点について
・研究の成果の見方について→一人の抽出児の様子を見るだけで良いのか

③指導助言：全国小学校道徳教育研究会　顧問　第３０代会長　大原 龍一 先生
全国小学校道徳教育研究会　顧問　第３７代会長　表迫 信行 先生

・道徳の授業で複数の教科にまたがる時間を一つのまとまりとして考えるとするならば、その必然性をはっきりとさせる必要がある。単元構成の際には、理論構成をしっかりとするべきである。
・研究を充実させるためには、どんなことをやっていけばいいのか、子どもがどんな姿を表せばいいのかを書き出して整理していくと良い。そうすることで研究がはっきりしていく。

３　講演

（１）「深い学びのある『考え、議論する道徳』を目指して」

畿央大学教育学部　教授　島 恒生 先生

①深い学びのある道徳教育とは、道徳科とは
②「道徳科」の課題を解決する、『考え、議論する道徳』とは

・道徳教育も道徳科も、道徳性を養うものであることを理解して指導にあたることが大切である。
・問題対応的な指導ではなく、プラス志向の計画的な指導が大切である。
・教師がしゃべりすぎず、子どもたちが考え合い、深い学びのある授業をすることが大切である。
・授業においては、発達段階や内容の視点を大事にすることが重要である。
・教職員がチームとなり、道徳教育の推進や授業改善に取り組むことが大切である。

（２）「一人ひとりがみんなたいせつ　―作品に託す願い―」

児童文学作家　くすのき しげのり 先生

①今こそ道徳教育を

・社会の様相を模範とする子どもたちにとって、道徳教育は国家の大黒柱である。

・道徳教育を始めるということは、まわりのことに関心をもち、意識を高めるということである。「心のものさし」を確かなものにするために、不可欠なことである。

②道徳教育でつくるあたたかく清々しい学校

・あたたかい教室をつくるために、今必要なのは環境のゆとり・心のゆとりである。

・私たち一人ひとりが、子どもたちの心を育てる環境であることを自覚すべきである。

・道徳教育が、あたたかく清々しい学級を醸成する。そしてそれが学校、ひいては日本へと広がっていく。

③よりよく生きる力を育てる道徳の時間を始めよう

・ディスカッションで授業は変わる。一人ひとりが大切にされる学級をつくるためには、ディスカッションが不可欠である。

・ディスカッションによりコミュニケーション能力が高まり、子どもたちに「想像する力、共感する力」が育つ。

・本を読むことは心の窓を開き、世界を広げることにつながる。また、「想像する力、共感する力」を働かすことで、その時々で揺れ動く人の心を見つめる力がついてくる。

・本を読むことで得られる、文章を読み解く力と画面を読み解く力は、「道徳」の大切な役割である、相手の心を察する・慮る・推し量る・思いやる力につながる。

・家庭・地域と共にすすめる道徳を目指すことが重要である。

（３）「道徳授業マネジメント　―自己の生き方についての考えを深める授業構想―」

帝京大学教育学部　教授　赤堀 博行 先生

①道徳教育の課題

②道徳教育をどのようにすすめるのか

③教育活動全体を通じて行う道徳教育の進め方

④各教科等の指導を通じて道徳性を養うための視点

⑤学校における道徳教育の全体像

⑥道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめるとは

⑦物事を多面的・多角的に考えるとは

⑧自己の生き方についての考えを深めるとは

⑨道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てるとは

⑩明確な指導観に基づく授業の創造

⑪道徳の評価の基本的な考え方

４　研修受講後所感

昨年度に引き続き、今年度も動画配信形式での参加となった。ただ今年度は、参会している人をも含む動画配信だったため、協議会等で道徳の授業を行う上での疑問やそれに対する答えなどを聴くことができ、とても参考になった。また、参会であれば、２つの実践事例しか聴くことができなかったが、動画配信のため両方の分科会の様子が分かったのでよりよかったと思う。

感染症の流行や揺れ動く世界情勢など、子ども達を取り巻く社会は複雑になっている。こんな時ほど道徳の授業を大切にして、心豊かにたくましく生きていく子ども達を育てていくことが大切だということを、この研修の受講を通して強く感じた。ここで学んだことを、今後の授業で生かしていきたい。